

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東岩槻小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	【課題】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、並びに既習事項の定着 【改善策】 ・「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。 ・各単元のまとめの段階で反復練習や自身で問題作りをする時間を十分に確保する。 ・全学年で読書に親しむ時間を確保し、主語と述語の関係を正しく理解させる。
思考・判断・表現	【課題】習得した知識及び技能を活用した課題解決力の向上 【改善策】 ・授業の中で、自分で考える時間、友達の見聞を聞く時間、自分たちでまとめを考える時間を確保する。 ・児童自身が学習のつながりに気付いたり、意識して学習を進められたりできるように算数コーナーの充実と授業展開の工夫を行う。
主体的に学習に取り組む態度	【課題】学びに向かう力の向上 【改善策】 ・算数スタンダードにある授業の進め方を各クラスで継続して実践することで、児童とともに学習課題を設定し、問題解決の見通しをもたせ、意欲的に学習へ取り組めるようにするとともに、家庭との連携をさらに強化する。 ・児童が具体物に触れたり、量感を意識したりできるように体験的な活動を取り入れられるよう授業展開を工夫する。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・R4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・理解」において、2pt向上させる。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「知識・理解」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率を2pt向上させる。	⇒ ・「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。また、各単元で問題練習に取り組む時間を確保できるように授業展開、進め方の工夫をする。
思考・判断・表現	・R4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において、2pt向上させる。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「思考力・判断力・表現力」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率を2pt以上向上させる。	⇒ ・授業の中で、自分で考える時間、友達の見聞を聞く時間、自分たちでまとめを考える時間を確保する。また、児童自身が学習のつながりに気付いたり、意識して学習を進められたりできるように算数コーナーの充実と授業展開の工夫を行う。
主体的に学習に取り組む態度	・さいたま市学習状況調査「分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ ・どの授業においても、分からないことを出し合ったり、質問したりできる学級の雰囲気を作る。また、そのための校内研修に取り組んでいく。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	・R4年度市学習状況調査の自校結果より国語の「知識・技能」において、2pt以上向上した学年なし、算数の「知識・技能」において、2pt以上向上した学年は2学年であった。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「知識・技能」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率を0.9pt向上させることができた。	C
思考・判断・表現	・R4年度市学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」において、2pt以上向上した学年なし、算数の「思考・判断・表現」において、2pt以上向上した学年2学年は2学年であった。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「思考力・判断力・表現力」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率を6.7pt向上させることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	・さいたま市学習状況調査「分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が100%の学年が1学年、90%を超えている学年が1学年、80%以上90%未満の学年が3学年、60%以上70%未満の学年が1学年であった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語:適切に漢字を使うことを苦手としている児童が多かった。算数:加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を用いた計算をしたり、百分率で表された割合を理解したり、二次元の表から条件に合う数を読み取ったりすることを苦手としている児童が多かった。
思考・判断・表現	国語:自分の考えが伝わるように書き方を工夫したり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたりする問題について苦手としている児童が多かった。算数:理由を言葉や数を用いて記述したり、図を基に各段階の商の意味を考えたり、複数のグラフから見出した違いを言葉と数を用いて記述したりする問題について苦手としている児童が多かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は84%、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の質問項目の、肯定的な回答の割合は89%で目標値に達した。今後もより一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	・国語:「指示語の役割」「常体と敬体の書き方」を問う問題を得意としている。「主語と述語の関係」「筆の運びを意識した書き方」を問う問題を苦手としている。 ・算数:「球の特徴」「重さの計算方法」を問う問題を得意としている。「小数の減法の計算」「四角形の定義」を問う問題を苦手としている。	小4	・国語:「指示語の役割」「適切な話し方」を問う問題を得意としている。「主語と述語の関係」「筆の運びを意識した書き方」を問う問題を苦手としている。 ・算数:「時刻の求め方」「減法と除法の混合した整数の計算方法」を問う問題を得意としている。「整数倍にあたる二つの数量関係」「グラフの読み取り」を問う問題を苦手としている。
小5	・国語:「辞書の使い方」「目的に応じた表の使い方」を問う問題を得意としている。「主語と述語の関係」「話の中心を捉えながら、自分の考えを持つこと」を問う問題を苦手としている。 ・算数:「二つの数量関係における、対応する値の求め方」「平均の求め方」を問う問題を得意としている。「基準量と比較量に着目した、適切な立式方法」「複合図形の面積の求め方」を問う問題を苦手としている。	小6	・国語:「辞書の使い方」「目的に応じた文書全体の構成の効果」を問う問題を得意としている。「主語と述語の関係」「話し手の意図を捉えながら、効果的に助言すること」を問う問題を苦手としている。 ・算数:「分数の除法」「立体の体積の求め方」を問う問題を得意としている。「基準量と比較量に着目した、適切な立式方法」「円周の求め方」を問う問題を苦手としている。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ ・「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取む。また、日々の授業の中でよりよい計算方法について積極的に取組むようにする。 ・各単元で問題練習に取り組む時間を確保できるように授業展開、進め方の工夫をする。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ ・授業の中で、自分で考える時間、友達の見聞を聞く時間、自分たちでまとめを考える時間を確保する。また、児童自身が学習のつながりに気付いたり、意識して学習を進められたりできるように算数コーナーの充実と授業展開の工夫を行う。 ・日々の授業の中で、「なぜそうなるのか?」「なぜそう言えるのか?」という言語活動を児童間、児童教師間で意図的に行う。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし